

学習応援教室 in 不二聖心女子学院中

～小学3・4年生の夏。9歳の壁に出会う！～

7月26日～7月30日で小学3・4年生を対象に静岡県裾野市にある不二聖心女子学院中の施設をお借りして、宿泊型プログラム「学習応援教室 in 不二聖心女子学院中～小学3・4年生の夏。9歳の壁に出会う！～」(4泊5日)を行いました。

「学習応援教室」って？

◆あたまとハート。

<学習応援教室>の学びを象徴するコトバ。

自然の中で、仲間と共に「あたまとハート」をたくさん動かして学ぶ体験がいっぱい。

考えることと同時に心もいっしょに動いたら、学ぶことが楽しくなり学びが広がっていく。

<学習応援教室>では、子ども達がワクワクドキドキしたことを、自分が納得いくまで考える。そんな4泊5日間です。



◆テーマは火。

最近はおもちゃ電化などで、本物の火に触れたり、知る機会が減る中、このプログラムでは仲間と共に火起こしから火を作り、育てるというプロセスを体験します。「火」そのものの歴史について知ったり、表現したりと、様々な角度から「火」というものを考えていきます。同時に火を生み出すことの大変さ、付き合っていくことの難しさ、思い通りにならない火と、自分以外の仲間という存在と共に過ごしていく中で、子ども達は成長していくのです。

子ども達は5,6人でグループを組み、そこに大人が1人付きます。でもこの大人は何かをしてくれる人ではない。答えを持っているわけでもない。一緒にいて、子ども達と一緒に考え、時には一緒にケンカをし、全力で一緒に遊ぶ…そんな存在。最初のうちは大人に何でも聞いていた子ども達も、許可をしてくれたり、答えをくれるわけではないことがわかると、大人も対等にその場にいるのが当たり前になります。また子ども達が仲間どうしてぶつかり合い、自分の意見が通らないこともたくさんある。でも納得いくまでぶつかることができるのも、宿泊型でずっと一緒にいるグループがあるからこそなのです。

火起こしの体験を通して、思うようにいかないことにぶつかったり、火が起きるプロセスであれこれと試行錯誤したり。すぐ火を起こせるコツ、よりも悩んでチャレンジして行動を繰り返します。指示をしてテクニックを教えるのではなく、大人のやっている姿をじっくり観察してやってみる。チャレンジするプロセスには仲間同士のやり取りが必要不可欠。大人が先回りして何かやってあげなくても、環境を作ることによって子ども達はいかようにも学び方を学び、自ら成長を作っていくことができるのです。

火起こしのほか、日常の全てが素材となり、子どもの学びのきっかけになります。

例えば食事の場面では、自然や生き物の恩恵を受けていることを、歌を歌いながら感じたり、ピュッフェ形式の食事にする事で、仲間の存在を意識しながら、自分が食べられる量を取り、取った分は完食をする！ということと共有して行きました。

自分だけの世界から飛び出す暑い夏。

仲間と共に過ごしたこの5日間は、子ども達にとって成長のための大きな一歩になることでしょう。



<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp